

お薬手帳を考える

薬剤部長

やまだ ひろし
山田 喜広

東日本大震災では、津波被害等により医療インフラが崩壊する中、以前(十年ほど前)と比べ仮設診療所で受診される患者さんが、お薬手帳を持っている確率が大きく上がっていたそうです。当院から岩手県、宮城県に派遣された救護班の医師をはじめとするスタッフも、お薬手帳に記載されている薬の服用履歴をはじめ、既往症、アレルギーなどの医療関係者に必要な情報を参考に円滑な診療ができました。災害にあったときにお薬手帳が非常に重要な医療情報を集約・共有する道具であることは証明されましたが、普段から有効利用してはいかがでしょうか。

当院に入院される患者さんの7割ぐらいはお薬手帳を持参されますが、中を開いて見ますと病院や薬局で貼ってもらった薬の履歴以外ほとんど記載がありません。せっかくのお薬手帳ですから、有効利用しない手はありません。体調の変化や気になったこと、医師や薬剤師に言いたい事や伝えたい事を書いておきましょう。お薬手帳に書いてあれば、たとえ医師の前で緊張していても聞き忘れはありません。また、自分で買った薬・健康食品な

ども記録しておくといじょうじょう。ご本人は気がつかない思いがけない飲み合わせや組み合わせが発見されることがあります。

東海・東南海・南海連動型地震が甚で噂されている静岡県では医師会、歯科医師会、薬剤師会、静岡県健康福祉部が協力して、平常時はもとより、発災時にも活用できる全国初の「防災型お薬手帳」を作成しています。興味のある方は調剤薬局でご相談下さい。転ばぬ先の杖ではありませんが、どこへ行く時でもお薬手帳を肌身離さず持っていられることをお勧めします。



[表]

[裏]



やさしい 疾患手帳

「我慢しない」脳卒中予防 ～新規経口抗凝固薬の登場

うきがい ひろし
総合内科部長 浮海 洋史



Profile プロフィール

- 所属/総合内科 ●役職/部長
- 専門分野/心臓核医学(CT・MRI)による診断、心臓インターベンション(虚血性心疾患の治療)、心エコー・心不全の治療、不整脈(心房細動など)の治療、睡眠時無呼吸症候群の診断治療
- 認定医・専門医等/日本内科学会専門医、日本循環器学会専門医
- 趣味/スポーツクラブ通い、読書(本屋大賞作家を中心に読んでいます)
- 好きな食べ物/ビール、お刺身、納豆、豆腐
- 自己PR/いろいろなお話をお聞かせください。

心房細動はとても怖い不整脈です。心房細動によって起こる心原性脳塞栓症は、大きな脳梗塞を起こすケースが多く、後遺症が残ってしまうことが少なくないからです。ですから、心房細動をお持ちの患者さんは脳梗塞の予防が大切です。

心房細動に伴う脳梗塞の予防は、①生活習慣を整えること、②抗凝固薬をきちんと服用することが不可欠となります。

抗凝固薬は、50年以上の歴史があるワルファリンが一般的ですが、内服中は①納豆や青汁・緑黄色野菜などビタミンKを含むものを食べられないこと、②定期的な血液検査を受けることの2つの注意点があります。食事の制限を守るため、好きなものを我慢される方も多いでしょう。何とかならないか…そんな声を受けて新しいお薬が登場しています。

ワルファリンと同等もしくはそれ以上の脳梗塞予防効果を持ちながら、食事制限を必要としなかったり、お薬の飲み合わせの影響が少ないという患者さ

んの制限や負担を少なくした、脳梗塞の予防に前向きに取り組める新しいお薬、新規の抗凝固薬です。

投薬可能かどうか、主治医に相談されてみてはいかがでしょうか?



病院探険 臨床工学技術課

臨床工学技士という医療職種があることを皆さんご存知でしょうか? CE(Clinical Engineer)と呼ばれ、厚生労働省認定の国家資格を有している職員のことです。当院では、現在6名の職員が働いています。それでは主な業務内容を説明します。

医療機器管理業務

輸液ポンプやシリンジポンプといった医療現場で普段良く使われる医療機器や、人工呼吸器や大動脈バルーンポンピング(IABP)・経皮的心臓補助装置(PCPS)など、生命維持管理装置の保守点検をしています。医療機器の修理対応や定期点検での精度の確認、部品の交換等を行い患者さんに安全な医療が提供できるようにしています。



透析業務

人工透析とは、腎臓の機能が悪くなった患者さんに対して行う治療です。透析の治療時間は通常4時間かかります。透析室では透析開始時の穿刺から患者さんの状態の観察、機械の正常動作のチェック、終了時の血液回収等を医師・看護師と協力し行っています。なお、透析患者監視装置(コンソール)や逆浸透装置(RO装置)、透析液供給装置の保守点検も定期的に行っています。



手術室業務

手術室では医療機器管理、修理・トラブル対応、特殊機器を使用する手術への立会いなどを行っています。手術室にも医療機器は多々あり、麻酔器やモニターや手術台など重要な機器が配置されています。これらの医療機器や手術室の設備を、毎朝、手術が始まる前に異常がないか点検しています。また、特殊機器を使用する手術の立会いとして、内視鏡機器がメインになります。近年では内視鏡下の手術が増えており滅菌前の点検や使用中のトラブル対応、故障時の修理対応を行っています。



血管造影(アンギオ)室業務

心臓カテーテル検査で使用する機器の操作などを行っています。患者さんの入室時の介助から、治療で使用する血管内超音波エコー(IVUS)、IABPやPCPSといった補助循環装置の操作を行っています。治療や検査中はポリグラフと呼ばれるモニターで患者さんに異常がないか監視しています。



臨床工学技士は医療機器の専門家として、病院内の医療機器のメンテナンスを行い、医師・看護師・医療技術職と協力し、患者さんにより良い医療が提供できるように日々業務にあたっています。今後さらに業務を拡大して活躍の場を広げていきたいと思っています。

◀平均年齢28歳の若さ溢れるスタッフです。

EVENT 情報

イベントは入場無料です

●お問合せ・お申込み先
浜松赤十字病院 総務課
電話:053-401-1111(代表)

第68回 目赤いきいき健康塾

- ◆日時/9月28日(土) 13:30開場 14:00開演
- ◆場所/浜松赤十字病院 2階研修ホールきよの とくひこ
- ◆講師/浜松赤十字病院 乳腺外科部長 清野 徳彦
- ◆演題/『早期発見で 治そう 乳がん ~当院での治療の実際~』
- ◆定員/150名(要事前申し込み)
- ◆後援/社団法人浜松医師会、社団法人浜北医師会

